

かわさき消防かわら版

消火ホースキット

～大規模地震発生時の初期消火用具として～

川崎市直下の地震が発生した場合には、市内では最大247件の火災が発生し、17,372棟の家屋が焼失すると想定されています。（※平成25年度川崎市地震被害想定調査より）

また、大規模な地震等で同時多発的に火災が発生した時には、消防隊の到着が大幅に遅れることが見込まれることから、地域の皆様による初期消火が重要となります。そのようなとき、この消火ホースキットが活躍します。

消火ホースキットは、消火栓に直接接続して初期消火を行うための資機材を収納箱に積載した、移動可能な消火器具です。収納されている直径40ミリメートルの消火ホースやノズルは、消防隊が使用しているものより細く、軽いことから、だれでも容易に取り扱うことが可能です。

現在、市内の小中学校等の全避難所176箇所に配置されています。有事の際に地域の皆様が初期消火活動にあたることで、火災による被害を軽減することが期待されています。各地域の自主防災訓練等で消火ホースキットの取扱い訓練も行っていますので、ぜひ訓練にご参加ください。



消火ホースキット

- ① 収納箱
- ② ホース (40mm) × 4本
- ③ スタンドパイプ
- ④ ノズル
- ⑤ 開閉器



消防隊のホースとの違い

40mm

65mm

重量は約3kg
消防隊のホースよりコンパクトになっており、誰でも簡単に扱うことができます。

消火栓の種類



丸形



角型

使用可能な消火栓は丸形、角型の2種類あり、市内の消火栓は約100メートルから200メートルの間隔を目安に設置されています。

消火ホースキットの詳細な取扱い方法につきましては川崎市のホームページに掲載されております。また、近日川崎消防署ホームページに掲載予定ですので御覧ください。

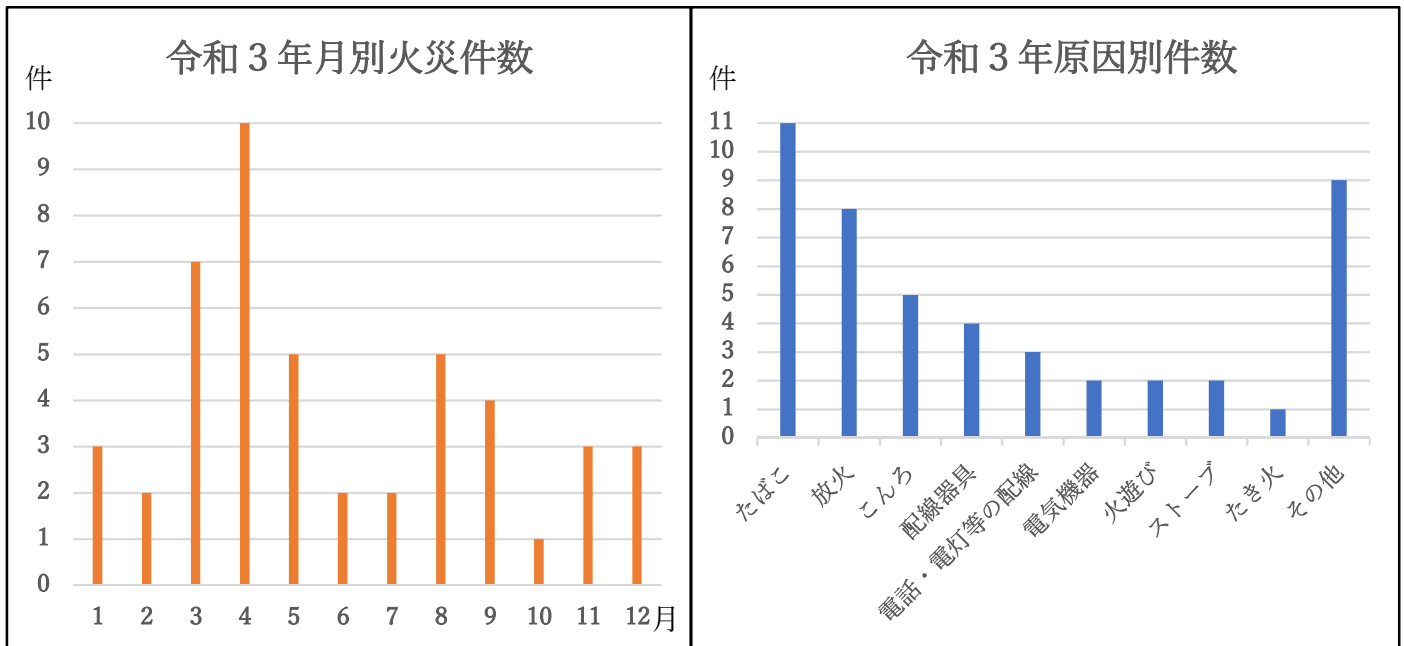
令和3年の火災・救急概況

川崎消防署管内の火災件数は47件で、前年より4件減少しました。火災原因別に見ると、1位たばこ、2位放火、3位こんろとなっております。

また、市内の火災件数は363件で署別件数は、臨港署56件、幸署37件、中原署57件、高津署55件、宮前署50件、多摩署42件、麻生署19件でした。

川崎消防署管内の救急件数は8,247件で、前年より246件増加しました。市全体では2,932件増加し、69,883件となっています。

火災



救急

